

「関係機関との協働による 平時からの災害体制の整備について ～医療的ケアを要する方の個別避難計画作成～」



大分県別府市防災局防災危機管理課
防災推進専門員 村野 淳子

2003年宮城県北部連続地震災害で約2週間被災者の支援活動を行ったことをきっかけに、2004年新潟県中越地震、2007年能登半島地震、新潟県中越沖地震など、その後全国で発災する被災地で、被災者の生活支援活動を行う。この頃より、福祉フォーラムin別杵速見実行委員会に積極的に関わるようになり、障がい当事者や家族、支援者とともに「障がい者の防災を考える」をテーマに勉強会や避難訓練、啓発活動を始め。その後、「別府市障がいがある人もない人も安心して安全に暮らせる条例」の施行に委員として関わり、障がい者の災害対応を条例に織り込む。東日本大震災では避難所の改善に取組み、被災者が“自分の命と暮らしを守る”ために、避難所運営を行えるようにするための訓練等を行っている。また、福祉避難所指定を受けている施設等には、業務継続計画を作成するよう促している。これまでの活動を活かし、前述の条例を具体的なものとするために2016年1月より別府市にて個別支援計画のモデル作りに着手している。

委員等

2004年～20015年3月

内閣府 防災ボランティア検討委員

2012年4月～2013年3月

内閣府 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ委員

2017年4月～2018年3月

総務省 国際室情報コーディネーター検討会委員

2020年6月～2021年3月

内閣府 中央防災会議 令和元年台風19号等を踏まえた

高齢者等の避難に関するサブワーキンググループ委員

2013年4月～

内閣府 中央防災会議 防災対策実行会議委員

2022年4月～

内閣府 中央防災会議 防災分野における個人情報の取扱いに関する検討会委員

共著

2020年1月

SDGs時代のパートナーシップ（成熟したシェア社会における力を持ち寄る協働へ）

福祉フォーラムin別杵速見実行委員会との協働

2017年度 大分合同福祉事業団福祉賞受賞

2018年度 総務省消防庁防災まちづくり大賞受賞

(日本防火・防災協会会長賞)

2020年度 糸賀一雄賞受賞

障がいがある人を中心にした
市民の集まりとして2002年に
設立されました。当事者や家族
の他に弁護士・大学教授・行政
関係者・福祉関係者等が参加し
ています。2007年に市内で起
きたマンション火災で障がいの
ある女性が亡くなったことや、
群発地震により多くの障がいの
ある方からの不安の声を受け、
防災の問題に取り組むようになり
ました。



別府市障害のある人もない人も 安心して安全に暮らせる条例 (通称：『ともに生きる条例』)

～みんなでつくろう！共生社会～



人々の障がいに対する理解の不足や社会にある様々な障壁により、障がいのある人は生活のしづらさや不安を抱えています。障がいのある人を取り巻くこれらの状況の改善に別府市全体で取り組み、障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために、この条例は制定されました。

2014年4月1日施行

(防災に関する合理的配慮)

第1 2 条 市は、障害のある人に対する災害時の安全を確保するため、防災に関する計画を策定するに当たっては、障害のある人への配慮に努めるものとする。

2 市は、障害のある人及びその家族が災害時に被る被害を最小限にとどめるため、災害が生じた際に必要とされる援護の内容を具体的に特定した上で、非災害時におけるその仕組みづくりを継続的に行うよう努めるものとする。

http://www.city.beppu.oita.jp/O3gyosei/syogai/ar_u_nai/townmeeting/pdf/jyorei_soan.pdf

災害時ケアプラン（別府モデル）作成標準業務手順（SOP）

ステップ0 ステップ1 ステップ2 ステップ3 ステップ4 ステップ5 ステップ6 ステップ7

地域におけるハザード状況の確認 当事者カ 私の 地域力 災害時ケアプラン 私と地域のタイムライン 当事者による プラン検証・
 アセスメント タイムライン アセスメント (地域のタイムライン) を含むプラン案作成 プランの確認 改善
 作成 作成 調整会議

当事者が住んでいる地域の洪水・津波・土砂災害等の危険度をハザードマップ等を用いて確認

平時に利用するサービスや資源を確認するとともに、本人の防災リテラシー（リスク理解・備え自覚・行動の自信）の現状と課題を当事者と共有

警戒レベル1（注意報）・警戒レベル2（警報）・警戒レベル3（高齢者等は避難）の各段階で取るべき行動を時系列に計画

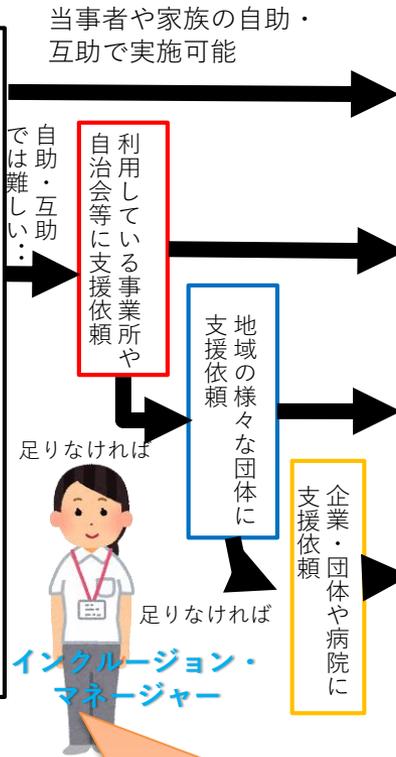
平時のフォーマル資源調査①
 ・行政の関係部局（福祉・医療・保健等）
 ・NPO/NGO
 ・消防
 ・警察 など

平時のフォーマル資源調査②
 ・利用している事業所
 ・病院や施設
 ・不動産屋、大家
 ・地域生活支援センター
 ・その他事業者 など

災害時のインフォーマル資源調査
 ・自治会、民生委員
 ・障害者団体
 ・老人クラブ
 ・その他団体や個人 など



CMやIMを媒介に、当事者と地域の支援者が協働で災害時ケアプランを作成



プラン作成
 ↓
 プランの確認と個人情報共有の同意

なるべく多くのステップに当事者が参画する！

インクルーシブ防災訓練での災害時ケアプランの検証・改善



あなたのまちの直下型地震 わたしのまちのマルチハザード等



ケアマネージャー 相談支援専門員

当事者の生活にどのような支障が生じるのか、ハザードインパクトが伝わるようにすることが大切

当事者力、平時に利用ならびに災害時に利用可能な社会資源を、担当のケアマネージャーや相談支援専門員（CM）が網羅的に調査

自治会役員や近隣住民と当事者を媒介する、インクルージョン・マネージャー（IM）が重要

プラン確認と個人情報共有同意がセット



自治会・
民生委員等へ
の説明会

—第1回研修会—
誰もが安心して安全に暮らせる災害時要援護者の仕組みづくり

2017年7月

説明会開催

避難行動要支援者への説明・参画への打診



“災害時ケアプラン”作成についての説明会



災害時ケアプラン作成

地域住民との調整会議・福祉専門職と関係構築



避難するのにどういった方法が一番良いのかというのを



日頃からの近所付き合いとか



本当にこう 災害時って 地域の方に助けてもらわないと



操作ができません

そう
コントローラーが操作できない

00:31



視覚障がいの方の誘導は初めて?

そうです
初めての割には上手いですよ

調整会議や訓練を通じて
地域住民と要援護者の顔
の見える関係づくり



ありがとう ありがとう
すごい歩きやすかった



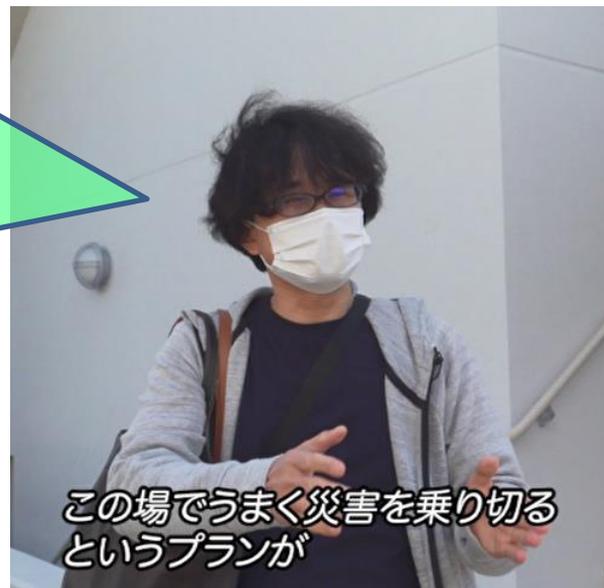
令和3年度 内閣府モデル事業 ～医療的ケアを要する方の個別避難計画作成～



好きな時間に
晩ご飯を食べられたり

退院してよかったこと

ハザードの確認などから、避難せずに在宅で災害を乗り切るプラン…電源の確保・家具止め、食料等の備蓄など…個人個人プランは異なる



この場でうまく災害を乗り切るというプランが

会議参加者
外部委員

医ケア児保護者

医ケアコーディネーター（市内13名 大分県が養成）相談支援専門員
西別府病院（重心・筋ジス病棟有）障害福祉事業専門員（心理療法士）
医師会訪問看護ステーション（市内18ヶ所事務局）看護師（管理者）
一般社団法人 別府市薬剤師会 薬剤師（理事）
江藤酸素株式会社 別府医療事務所 所長

一般

福祉フォーラムin別府・速見実行委員会
防災事務局3名 内1名は車いす利用者

大分県

東部保健所	参事
防災対策企画課	課長補佐
障害福祉課	主幹
福祉保健企画課	主任

別府市

高齢者福祉課	課長補佐	主査
障害福祉課	課長補佐	主任 主任
介護保険課	課長補佐	主査 主査
健康推進課	課長補佐	
防災危機管理課	主査	防災推進専門員



午後から仕事とかも
させてもらっているので

退院してよかったこと

別府市インクルーシブ防災
“難病患者等の医療的ケアを要
する方”のネットワーク会議



医療的ケア児コーディネーター

橋本 裕貴さん

直接 医療機関にしかかかって
いない方もいらっしゃるので



相談支援専門員

橋本 憲明さん

社会福祉法人 別府若葉会
めろでいー相談支援事業所



訪問看護ステーション管理者・看護師

岩尾 尚子さん

別府市医師会

酸素(吸入療法)とかしてる方は
相当多くて



所長

山岡 光夫さん

江藤酸素株式会社 別府医療営業所

防災の側面かというと

1. 関係機関と連携して個別避難計画を作成していく上で、 市が担っている役割

- ①関係機関へ説明・協力のお願い
- ②福祉専門職への説明・協力のお願い・ケアプラン作成研修
- ③福祉専門職への寄り添い
- ④地域住民への説明・協力のお願い
- ⑤地域住民と福祉専門職、避難行動要支援者をつなぐ
- ⑥調整会議の開催
- ⑦訓練の開催
- ⑧計画作成等に必要なすべての調整

2. 連携体制（顔の見える関係性）ができるまでの経験談、 ポイントとなったこと

- ①福祉専門職との関係構築・信頼関係→職務内容の理解・計画作成の必要性
- ②避難行動要支援者（家族）との関係構築・信頼関係→寄り添い
- ③地域住民との関係構築・信頼関係→困りごとへの解決
- ④本気度を行動で示す→まずは行動→理解が得られるまで通い、納得してもらおう

大分県東部保健所へのヒアリング&協働の確認→訓練

大分県社協、福祉フォーラム、別府市協働、福祉専門職研修



相談支援専門員役

自治会長役

当事者役

副自治会長役

民生委員役

●大分県社協事業（大分県）臼杵市への個別計画作成支援

個別避難計画モデル作成

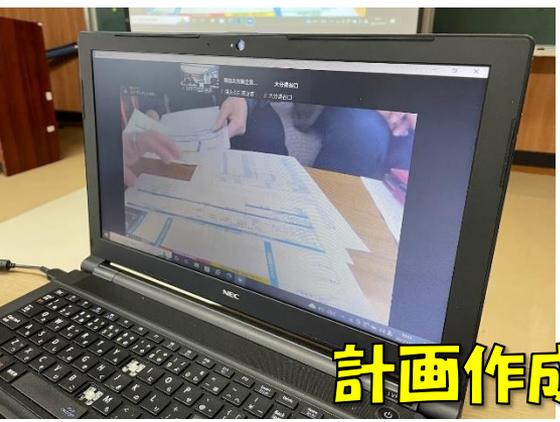


関係者打合せ会

福祉職・行政職合同研修会



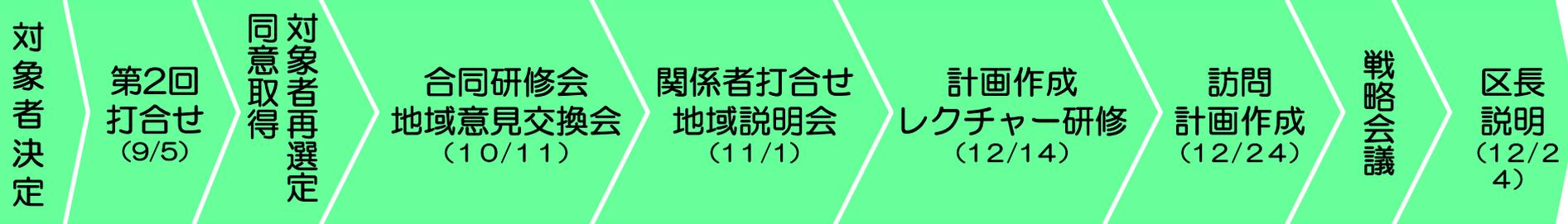
**福祉専門職
計画作成研修会**



計画作成の様子



区長説明会



3月10日（金）地域の避難訓練にて個別計画作成検証訓練実施

3. 大分県や県保健所との連携した取り組みについて

- ①ヒアリングと役割分担の確認→訓練
- ②どんなことを行っているのか知ってもらう
- ③他市町村への波及応援→実践して見せる→信頼を得る
- ④研修会開催の協働への取組→すべての知力を集結して開催

4. 取り組みを進めて感じている効果 など

- ①自治会活動の変化→地域の自主的な学び
- ②避難行動要支援者の変化（多くの支援者に出会って）
- ③協力団体等の申し出
（医療機関・介護支援専門員協会・自立支援協議会防災部会）
- ④避難行動要支援者の当事者としての判断や行動につながった



全ての人に寄り添い、別府市総働で 災害から命と暮らしを守る



安心して安全に 暮らし続けられる

持続可能な地域づくりと人づくり

誰一人取り残さない防災